

平成27年度 帝塚山学院中学校高等学校 学校評価

教育目標	建学の精神である「力の人」、そして「高い志」「豊かな感性」「他への思いやり」という3つの教育理念を踏まえ、主体的に未来を創る女性を育てる。
------	---

目指す学校像	「自学主義」の伝統に則り、知識蓄積と知識活用を両輪に21世紀型の学力を身に着ける授業を展開する。また、0から1を生み出す創造力、自己表現が可能な学校行事の設定と教育環境を構築する。
--------	--

学校評価の経緯	本校では、平成20年より学校評価委員会を設置した。学校運営から生活・進路・学習指導、教員の資質向上に至るまで、幅広い範囲でのアンケート評価を教員および生徒・保護者に実施している。その達成をA～Dの四段階で表示する。
---------	---

評価項目	取組目標	具体的な方策	達成状況	達成度	課題と改善策
重点目標：教育理念に沿った教育的多様性の維持					
分類：学校運営・組織体制					
私学の独自性	教育理念が教職員、生徒、保護者など、学校関係者によく浸透している。	学校説明会やホームページでの情報公開、教育広報誌での周知を行う。	教員、生徒、保護者ともに教育理念と学校改革をよく理解している。	A	更なる情報公開の透明性を図り、学校の変化について伝える。
	同窓会、後援会とのネットワークを確立し、学校運営に応じた支援をあおいでいる。	同窓会室を設置し、日々の情報交換を行っている。	同窓会、後援会からの助言を得て教育内容の改良を続けている。	A	2016年の百周年を迎えるに当たり、様々なイベントでの連携を深めていく。
教育課程	教育課程は学習指導要領に沿っている。	学習指導要領に則ったシラバスを作成し、学期毎の学習内容と進捗、成績評価の方法を生徒・保護者に周知している。	生徒・保護者ともシラバスを確認し、予習や復習、学期テストへ向けての対策に役立っている。	A	従来のシラバスの内容に加えて、学年毎にコース・に応じた達成目標を設定する。具体的には、英検等の各種外部検定の取得目標を示す。
	年間を通じた教育計画を各教科別に立てて実践している。				

評価項目	取組目標	具体的な方策	達成状況	達成度	課題と改善策
分類：学校運営・組織体制					
教員間連携	中高教員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。	中高6年間を一貫して担任を持つことで、相互の業務内容を理解する教員を増やす。	中高の担任を経験した教員数は年々増えているが、全体としては過半数に満たない状況である。	B	中高の担任を経験した教員を増やすと同時に、授業実践に関する研究会を設け、指導内容の共有化を図る。
	教員間で授業内容を評価、意見交換などを行う機会がある。	学期毎に授業研究会を設け、指導方法を教科の枠を越えて伝えている。コース毎に委員会を設置し、指導内容の強化を行っている。	教科間について共通した発表の機会があったが、コース間の教育方針を相互に連絡する場がなかった。	B	コース・専攻の枠を越えた拡大委員会を設定し、現行の教育内容について情報交換ができるようにし、更なる教育力の向上を図る。
	教科間・コース間で教育方針の情報交換の機会があり、相互理解がとれている。				
財務関係	教職員全体が、学校の経営指標と財務状況について理解している。	毎年、各部の事業報告と財務状況について学校ホームページにアップし、情報公開を行っている。	事業報告と財務状況の閲覧は各教員の判断によっており、周知徹底できない側面があった。	B	各種会議を通じてホームページの資料などを共有し、事業報告ならびに財務状況の周知を行う機会を積極的に設ける。また、新任教員向けに本部から理事会と評議会の役割について伝達する機会を設ける。
	教職員全体が評議員会、理事会の役割や機能について理解している。				

評価項目	取組目標	具体的な方策	達成状況	達成度	課題と改善策
分類：学校運営・組織体制					
情報公開	学校ホームページで可能な範囲の情報公開をしている。	各年度の学校評価アンケートや学校いじめ防止基本方針を含め、公開可能な情報の提供を幅広く行っている。	保護者配布プリントやインフルエンザの治癒証明などをpdf化してダウンロードできるようにした。	A	ホームページの閲覧性を向上し、目的の情報にアクセスしやすいよう工夫をする。また、さらに公開可能な情報があれば随時追加する。
	保護者などへ授業を公開している。	学期毎に PTA 自由見学日を設けて、保護者へ授業を公開する。また、受験希望者などにも学校見学を可能にする。	PTA 自由見学日と学級委員会を同一日にするなど、できるだけ多くの保護者に授業を見てもらえるようにした。	A	祝日や休日に授業公開日を設定するなど、仕事を持つ保護者も来校しやすいようなスケジュールを考える。
危機管理	事故、事件、災害時に対処する役割分担が明確にされている。	避難訓練の際に消防署に連携をおおぎ、講評をいただく。震災マニュアルを作成し、各家庭に配布する。	震災の初期対応と火災発生時の放送に関して、責任の所在が明確でない部分があった。また、不審者対応の手順が不明確だった。	B	震災・火災について初期対応の役割分担を決め、責任の所在を明確にする。また、不審者対応のマニュアルを併設小学校と連携して作成する。
	危機管理マニュアル、警察、消防との連携、訓練など学校の安全対策は十分にとられている。				
募集広報	入学者を確保するための十分な募集広報活動を組織的に行っている。	アドミッションセンターを設置し、職員と教員が協働する形で募集・広報活動を行っている。	時宜に応じた効果的な広報・営業活動を行い、中高ともに定員を確保することができた。	A	少子化の進む厳しい市場の状況を踏まえて、より効果的な募集活動の方法を模索する。

評価項目	取組目標	具体的な方策	達成状況	達成度	課題と改善策
重点目標：自ら考える力・発信力の育成とキャリア教育の推進					
分類：教育内容					
学習指導・進路指導	基礎学力を身に着け、定着させられるような学習指導を研究・実践している。	学期毎に授業研究会、授業見学週間を設け、教科内だけでなく教科の枠を越えた取り組みの共有を行う。	各学期に1回、教科を指定して授業実践の取り組みを全教員に発表してもらった。講義型だけでなく参加型など、教科特性を生かす様々な形式での実施だった。	A	現在の形式での授業研究会は3年目を迎えており、全教科の発表が一巡した。次年度からは難関大の指導とアクティブラーニングの研究に軸足を移した研修を予定している。
	生徒の知的好奇心と自ら考える力を育むよう、指導の工夫・改善を行っている。	中学では創究基礎、高校では創究講座を週2時間設定している。本校の教育モットーである「自学主義」の体现を目指す。	創究基礎ではレポートの書き方やプレゼンの仕方などを学習した。創究講座では大学の各学部に応じた自主的な学びを促す授業を展開した。	A	2021年よりの大学入試改革を視野に入れ、本校の強みであるアクティブラーニングの分野をさらに教科指導に取り入れていく。
	適正検査および学力検査を活用して、生徒の適正や学習状況、希望進路を把握し、適切に進路指導を行っている。	ベネッセをはじめとした外部模試を年3回程度、中1から高3の各学年において実施している。	適切な時期に適切な外部模試を実施できたが、模試結果の分析を担当教員で共有する取り組みに欠けた。	B	エンrollment委員会を新たに立ち上げ、模試毎に関係教員を集めた成績分析会を開催する。会議での内容を共有し、成績向上を目指した効果的な指導を模索する。
	生徒が望ましい勤労観・職業観を持つことができるよう、各学年に応じた検討的な進路指導を行っている。	コース・専攻に応じた形で高2・高3に学部説明会を設けている。また、卒業生を招いて自らの進路選択について語らせる。	高校での学部説明会、「先輩と語ろう」の実施に加えて、中学ではキャリア教育の一貫として R-CAP テストを導入した。	A	キャリア教育の多くが高校において実施されている現状を踏まえ、今後は中高一貫校の強みを生かす形での中学から将来的な職業観を構築できる指導を目指す。

評価項目	取組目標	具体的な方策	達成状況	達成度	課題と改善策
重点目標：礼節の女子教育の推進としてマナー指導と互いの違いを認めあう教育活動の実践					
分類：教育内容					
情報教育	生徒の情報活用能力の育成を図っている。	情報の授業を通じて、コンピュータやタブレットの使用に習熟する。また、生徒・保護者に向けた「携帯安全教室」を開催し、適切な携帯の使い方を伝える。	携帯所持の許可条件として「携帯安全教室」を開催し、SNS利用などについて学校のルールを伝えた。しかし、個人情報の発信などモラル面での教育が十分ではなかった。	B	インターネットを利用することのプラスとマイナスを適切に理解するため、インターネット企業などの外部機関を招聘し、情報モラル講座を開催する。
	情報の発信に伴う責任など情報のモラル面の教育に十分取り組んでいる。				
道徳教育	人権尊重に関するさまざまな課題や指導方法を教員が研究する体制がある。	人権委員会から便りを発行し、生徒への啓蒙を行う。また、「大阪を歩こう」や「広島へ行こう」などの研修旅行を主催する。	夏休みに京橋の空襲慰霊碑を訪ねる「大阪へ行こう」を実施し、模擬原爆などについて学習した。「広島へ行こう」は参加人数が集まらず中止となった。	A	人権委員会主催の行事について生徒向けの広報を拡大し、実施できるようにする。また、2019年の道徳教科化に向け、体系的な形でのカリキュラムと評価法を確立する。
	人権尊重の教育において、さまざまな学習方法で意識を高める教育を行っている。				
環境教育	ゴミ、リサイクル、省エネなど身近な問題から環境への関心を高める教育をしている。	生徒会・自治会を通じてペットボトルキャップを回収するボランティアを行う。学期毎の大掃除を通じてごみの分別について意識を高める。	ペットボトルキャップについては周知が足りず、効果的な活動につながらなかった。ごみの分別もクラスによって状況にバラつきがあった。	B	ごみの分別について普段の生活から意識づけるよう担任からの指導を統一する。また、教科を通じて学んだ環境問題やリサイクルの知識を、生徒会・自治会の活動を通じて実践へとつなげていく。

評価項目	取組目標	具体的な方策	達成状況	達成度	課題と改善策
分類：教育内容					
環境教育	生徒に清掃、校内美化に取り組ませている。また、施設・設備を大切に作る心を育成している。	毎日の掃除や学期毎の大掃除を通じて、使用教室および環境整備の大切さを指導している。	日々の掃除だけでなく、オープンスクールなどの入試行事前日での全校一斉掃除を実施した。また、器物の破損などもほぼ見られなかった。	A	日々の学習の場に対する感謝の気持ちを喚起し、決められた掃除だけではなく各人が主体的に教室などを大切に扱うように指導する。
生徒会活動・ボランティア	生徒会・自治会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している。	選挙活動を通じて発表した公約を実現できるよう教員側がサポートを行った。また、生徒会・自治会主催の行事を行った。	運動部からの要望を受けてスポーツドリンクの自販機を設置した。また、年度初めに全校生徒が参加できるもちつき大会を開いた。	A	ボランティア活動や募金活動など、生徒の主体的な提案をさらに促していく。また、生徒会長・自治会長の任期について、前期・後期制では活動の期間が限られるため、これを通年に拡大することを検討する。
	教育活動を通して、奉仕の精神の育成を図っている。				
読書推進	図書館の積極的な利用を促し、読書指導に取り組んでいる。	図書館だよりを毎月発行し、新刊本やおすすめ本など蔵書の周知を行う。また、学校ホームページを通じて蔵書検索を可能にし、保護者への貸し出しを行う。	豊富な蔵書を利用して、生徒たちが興味・関心を抱くような本の紹介や特集を組み、貸し出し数を向上させた。また、生徒の自学自習の場として効果的に機能した。	A	今後、アクティブラーニングが本格的に導入されるにつれて、レポートやプレゼンテーション作成のために生徒が主体的に学習をする「ラーニングコモンズ」の場としての機能を集約させていく。

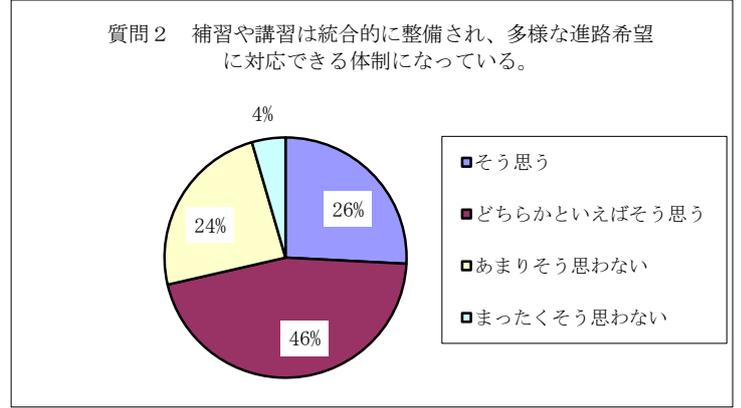
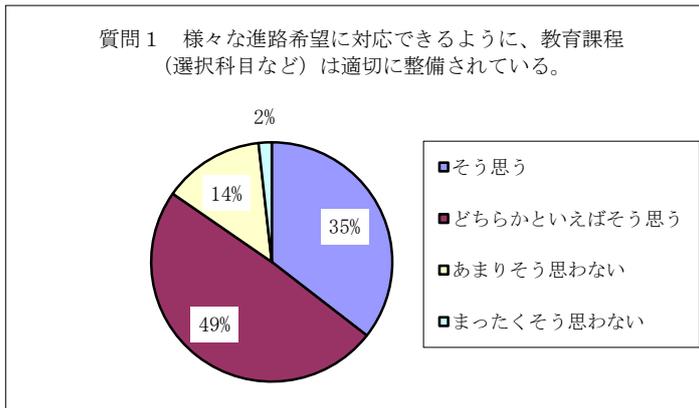
評価項目	取組目標	具体的な方策	達成状況	達成度	課題と改善策
分類：教育内容					
部活動	部活動を活発に行い、生徒の責任感や連帯感の育成を図っている。	クラブ推進委員会を設け、学習プラス1の場としてクラブ活動への参加を積極的に推進している。またクラブ活動を通じた礼節や責任感の指導に力を入れている。	生徒の入部率は85%を越えている。また、クラブ顧問ハンドブックを委員会主体で発行し、事故の予防や実際の指導について顧問間で情報共有を行っている。	A	クラブ活動と学習の両立が図れるよう、各コース委員会とクラブ推進委員会で連携する。また、熱中症などクラブ活動時の事故対応について教員が共通理解を持つ。
学校行事	芸術文化活動やスポーツ活動を通じて、他者と共感する感受性の育成に取り組んでいる。	コーラスコンクール、帝塚山学院祭、ふえとだある、スポーツデーなど、芸術とスポーツに関する行事をバランスよく配置し、生徒主体での行事運営を行っている。	中1から高3の各クラス生徒で運営委員会を構成し、高3委員長の指示の元で各行事を運営した。行事活動を通じての仲間づくり、連帯感の醸成に成功した。	A	大学入試を控えた高校3年生の行事参加について検討を進めるとともに、生徒が勉強に集中すると行事に取り組む時期のメリハリをつけるよう行事の開催時期についても精査を進めていく。
	体育祭・文化祭などの学校行事を通して連帯感を深め、自主的な態度の育成を図っている。				
国際理解	他国の歴史・文化の理解、異文化交流など国際理解についての教育活動を実践している。	中学ではカナダ研修、高校ではウィーン研修、イタリア研修、イギリス研修など、学年・コース・専攻に応じた形での海外研修を設置し、国際理解や異文化交流に努めている。	8月のカナダ研修は実施することができたが、フランスのテロ事件以降の研修は中止にせざるを得なかった。	A	ベルギーでもテロが引き続き、実際に海外へ生徒を送る研修は難しくなりつつある。オセアニア等、テロの影響が少ない場所に研修先を移す検討と共に、国内で同様の教育効果を期待できる研修の設定を検討する。

評価項目	取組目標	具体的な方策	達成状況	達成度	課題と改善策
分類：生徒指導・支援					
生徒指導・支援	生徒の生活指導に学校の一貫した方針に従い、組織的に対応できる体制がある。	中学・高校と生徒の成長段階に応じた学校のルールを明確化し、スクールハンドブックで保護者にあらかじめ通達、一定のルールに基づいた生徒指導を行っている。	過去の先例と生徒個々の状況を判断しながら、一定のルールで生徒指導を行うことができた。また、三者面談を通じて生徒・保護者ともに校則を再確認する機会を持った。	A	校内の生徒状況と社会情勢に応じた形で適宜ルールの微調整を行う必要がある。また、日々の指導や声かけから生徒の規範意識を高め、あらかじめ問題行動を遠ざけるための予防的な取り組みを行う。
	いじめ問題について、保護者と連携をとりながら組織的に対応できる体制がある。	生徒間の小競り合いに早い段階で介入し、いじめへとつながる前に未然に防ぐ体制を担任団と学年主任会で構築する。	学年主任会と生徒観察報告会を通じて生徒の情報を共有し、生徒の動きに先んじた対応を行った。また、hyper-QU（生徒アンケート）を行い、クラス状況把握の助けとした。	A	現行の取り組みを続けていながら、hyper-QUを通じて判明した生徒やクラスの情報を担任だけでなく、学年団や学年主任会でも共有し、いじめの予防を徹底する。
	カウンセリングマインドを取り入れた支援体制があり、カウンセラーの活用ができてきている。	カウンセラーが常駐しており、生徒だけでなく保護者も利用することができる。また、生徒観察報告会等に適宜カウンセラーに出席を依頼し、適切なアドバイスをすることができる。	カウンセラーとカウンセリング室の存在を生徒に周知した。また、学校に来づらい生徒をサポートする保健支援委員会にメンバーとして参加をお願いした。	A	学校に来づらい生徒への対応を含め、よりいっそう緊密な連携を行い、学校・家庭の両面から生徒と保護者のケアを深めていく。

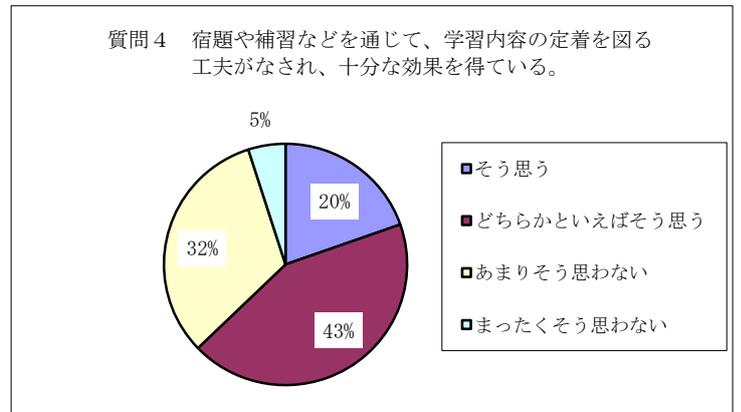
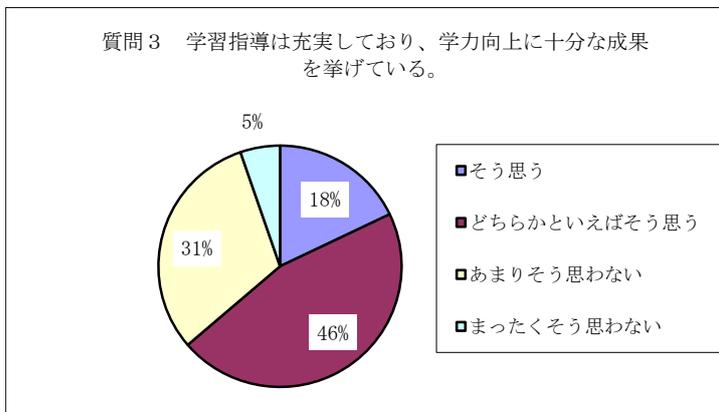
評価項目	取組目標	具体的な方策	達成状況	達成度	課題と改善策
重点目標：教員研修体制の充実と指導力の向上					
分類：教員研修					
	教職員に対して、効果的な校内研修計画を立案し、実施している。	学期に一度、現在の教職員に必要なと思われる情報を提供し、資質を養うための研修会を開催している。	適切な保護者対応やアクティブラーニングの方法論、市場に選ばれる私学についてなど、バラエティに富んだ教員研修を行った。	A	情報モラル教育や新型入試とアクティブラーニングの関係など、外部状況を敏感に把握しながら適切な研修を適切な時期に実施する。
	初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制がある。	4月の冒頭に学校の実務必携を用いた業務説明会を行う。5月に法人本部より規定についての説明会を行う。	年度当初には様々な情報を提供し、新任教員がスムーズに職場環境へなじめるよう気を配った。しかし、年度後半については新任教員への配慮が手薄な部分があった。	B	電話対応や書類の書き方など、より実務に即した形での研修を増やす。また、授業見学の機会を増やし、新任教員の授業に対してアドバイスやサポートを増やしていく。
	教員が校外研修に参加し、教育力の向上に努めている。	各教科向けの研修について、主任を通じて紹介する。また、教員研修の案内板を職員室に設置し、教員に向けた定期的な情報の提供を行う。また、研修に参加した教員の報告書を各部署で回覧する。	校外研修へ自発的に参加する教員がいる一方で、日々の業務に忙殺され参加できない教員も多かった。研修の報告書の提出・回覧についても徹底できていない場合があった。	B	教員の資質向上や学校として必要な研修への参加を一部義務づける。教員用電子掲示板などを用いて出張報告の共有を容易にできる仕組みの構築を目指す。
	研修・研究に参加した成果を他の教員に伝えて情報を共有する体制がある。				

＜平成27年度 帝塚山学院中学校高等学校 保護者による学校評価アンケート結果＞(委員＋一般)

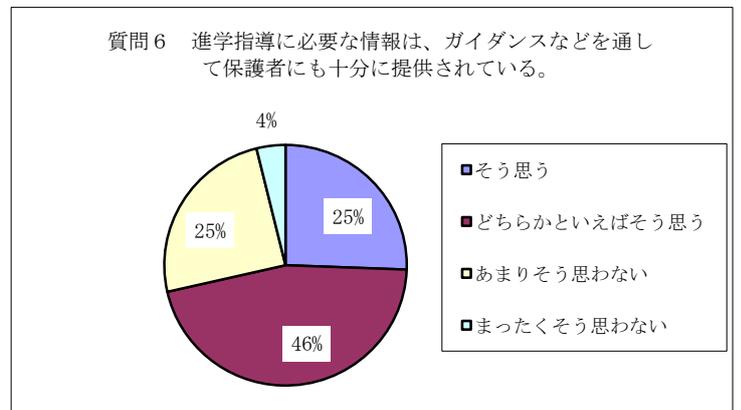
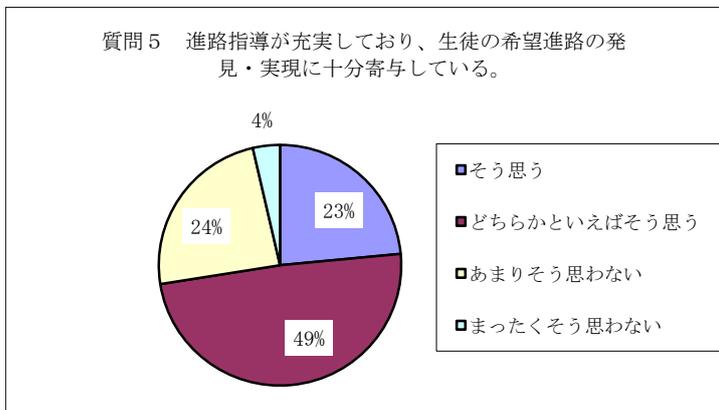
＜教育課程＞



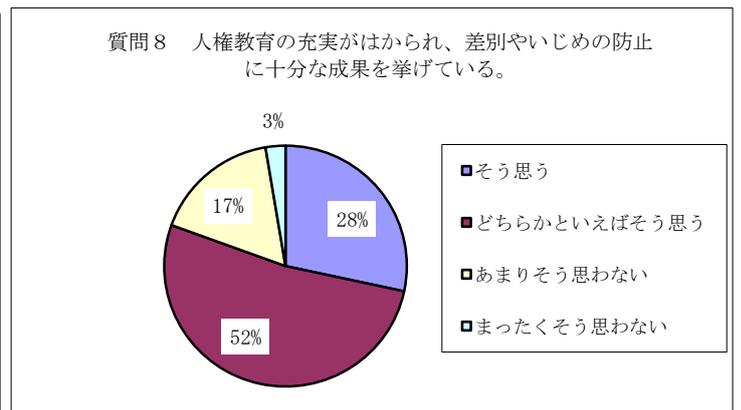
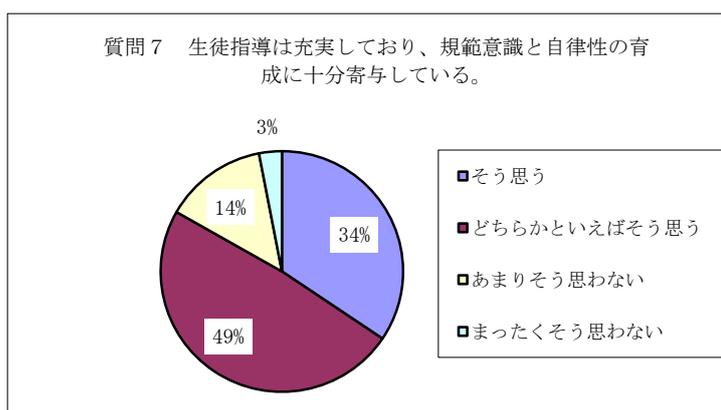
＜学習指導＞



＜進路指導＞

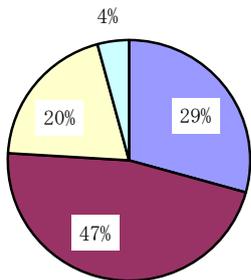


＜生徒指導＞



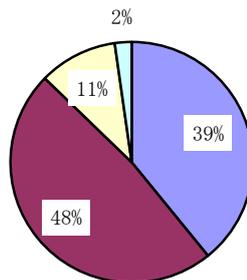
<課外活動>

質問9 部活動は学習との両立について配慮がなされているとともに、生徒に十分な指導が行われている。



- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

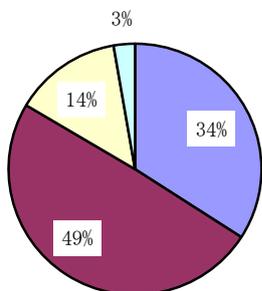
質問10 学校行事は充実しており、生徒の自主性の育成に役立っている。



- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

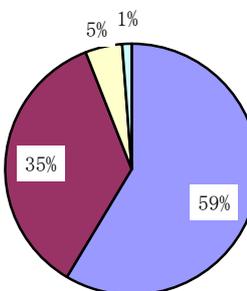
<安全管理>

質問11 登下校の安全や交通マナーに関する指導が、十分なされている。



- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

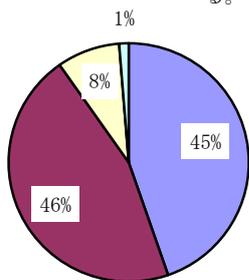
質問12 施設・設備は安全かつ衛生的に管理・整備がなされている。



- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

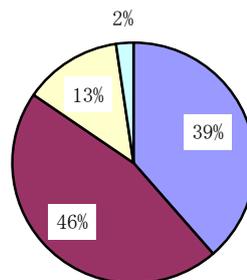
<情報発信>

質問13 授業参観やPTA行事は適切な頻度で行われており、学校の様子をうかがい知る機会として機能している。



- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

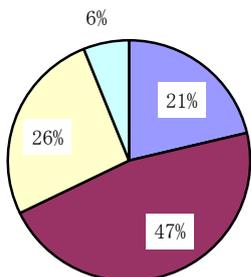
質問14 学校からのお知らせ文書などを通じて、必要な情報を不足なく得ることができる。



- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

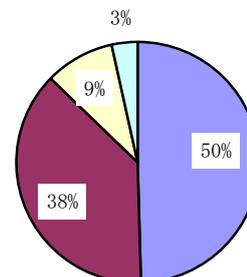
<その他>

質問15 教員はチームワークがとられており、どの教員に相談しても、一貫した対応が期待できる。



- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

質問16 この学校に入学させてよかった（知り合いや親戚にもこの学校を勧めたい）と思う。



- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

【学校評価委員会からの意見】

委員構成 ① 帝塚山学院 評議員 ② 製造業会社経営 ③ 鉄鋼業会社役員 ④ 石材販売会社経営

〈自己評価の結果に関して〉

○学校運営について

理事長・校長のリーダーシップの下、伝統を大切にしながら、PTAを始めとして多くの視点から意見を取り入れ、新たな改革も模索している。

近年の厳しい募集状況に対して、定員を確保し続けていることを考えても、運営については順調に行われているように思う。

○教育内容について

教育内容については、私学の中高一貫校らしい内容となっており、的確な目標設定と改善が行われているように思う。

教育を知識量の豊富さのみでなく、芸術・運動・精神と幅広く生徒たちへ指導している。

新任教員の声の小さいように思う。授業見学など、新任研修を行って欲しい。

自己評価と保護者評価の乖離が気になる。他の項目の満足度が高いわりに、学習指導についての評価が低い。この点については改善を期待したい。

○生徒指導・支援について

服装・風紀・いじめなどの点では順調に推移していると感じる。SNSの利用などについては、指導方針に少しブレが出ている印象を受ける。

生徒指導・支援について、日頃より大変手厚く行っていると思う。学校だけでなく、家庭内での会話が大事である。

校内・校外とも、十分な指導が行われている。ただ、中学生には少し厳しく、高校生には少し緩いように見え、微調整の必要性を感じる。

○教員研修・資質向上について

校内・校外の研修が一定の成果を上げているように見受けられる。

費用対効果の意識を持ち、報告書や報告会を充実することで、一人の経験を全員で共有できるとよい。

社会情勢に対応できる研修内容を模索している。教員の個性を生かす多様性に富んだ研修を全体で共有できるとよい。

<保護者による学校評価結果について（H26&H27 比較）>

全般的に横ばいである。アンケートに具体的な対応の欄を設ければ、否定的な意見の保護者から改善策を募ることができる。

昨年と大きな変化は見られないが、学習指導については他の項目に比べると否定的な評価が多いため推移しており、改善策を考えてもよいのではないかと。

多くの保護者が「この学校に入学させてよかった」と回答していることがよい。